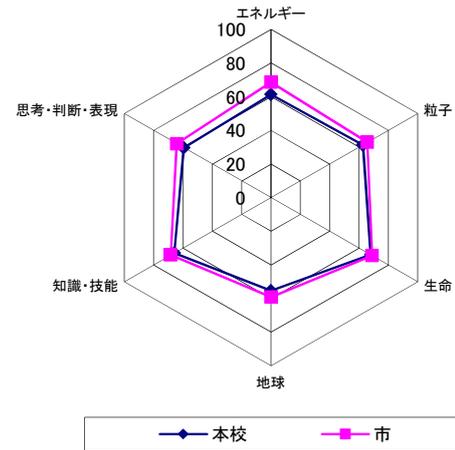


# 宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	61.3	68.7	63.6
	粒子	62.7	65.7	64.2
	生命	68.0	68.9	64.4
	地球	55.3	59.2	54.3
観点別	知識・技能	65.9	68.4	64.4
	思考・判断・表現	59.4	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より7.4ポイント下回った。</p> <p>○音の性質については、7割を超える正答率であったことから、知識が身に付いている。</p> <p>●磁界の向き及び電流が流れる水溶液を指摘する問題では、理解度が低い。</p> <p>●電流と磁界、水溶液とイオンについての問題では、選択であっても正答率が低く、無解答の割合もやや多いので、問題文の読み取りにも課題があると考えられる。</p>	<p>・実験だけでなく、図で考える機会が多い分野なので、実験と図を同じものとしてとらえることができるようにするために、ドリル形式で多くの図に接して理解が進むように促す。</p> <p>・授業のまとめなどで、問題演習を行い、問題文の読み取りや思考の順序などについて練習する機会を計画的につくる。</p>
粒子	<p>平均正答率は、市の平均より3.0ポイント下回った。</p> <p>○蒸留についての内容については、選択形式の問いで市とほぼ同じ程度身に付いている。</p> <p>●水溶液とイオンについては他の領域よりも正答率が低い。</p>	<p>・実験については来年度も引き続き計画的に行うが、実験の結果を表やグラフにまとめたり、そこからどのようなことがいえるのかに重点を置いて授業の改善を図る。</p> <p>・結果から推測できることや知識の活用において、自分の言葉で思考・表現する機会を授業の中に積極的に取り入れ、思考・表現の習慣化を図る。</p>
生命	<p>平均正答率は、市の平均より0.9ポイント下回った。</p> <p>○植物の分類については正答率が8割前後の結果を得たことから、観察の技能、植物の特徴などの知識が身に付いていることが推測できる。</p> <p>●唾液の実験については正答率が半分程度で、考察だけでなく、知識としても身に付いている割合がやや低い。</p> <p>●生殖や発生についての知識は身に付いているが、知識を活用することができていない</p>	<p>・植物の観察については技能の習得をはじめ、引き続き丁寧に学習を進める。</p> <p>・コロナ対策の影響で唾液の実験を行えなかったことが影響していると考えられる。今後、安全対策を講じながら実験を実施する。</p> <p>・知識の活用として、話し合い活動や調べ学習を授業に取り入れ、主体的に学習する機会を増やしていく。</p>
地球	<p>平均正答率は、市の平均より3.9ポイント下回ったが、参考値より1ポイント上回った。</p> <p>○火山についての知識・理解は、正答率が50%を超えて、特に花崗岩の特徴については正答率が約78%であった。</p> <p>●前線の断面のようすについて、正答率がかなり低く、気象のイメージがつかめないことが、理解の難しさにつながっていると推測できる。</p>	<p>・火山の分野では、できるだけ実習・観察を行い、さらに映像などで理解を深める活動を行う。</p> <p>・気象の分野では、実験や観察が少ない。前線や気象の変化については写真画像やNHKforSchoolなどを活用する授業を計画する。</p> <p>・天気予報や季節の変化などを紹介して気象に興味関心をもたせる工夫を行う。</p>